夏季利尻島訪問報告書

山内 理菜

1.　2024 年夏訪問の概要

・参加メンバー

山内理菜、小河瞭太、篠澤俊一郎、篠澤賢俊

・日程表

	8月19日	8月20日	8月21日	8月22日	8月23日
4:00					
5:00					
6:00	花園駅→関西国際空港				
7:00		稚内港→鴛泊港			
8:00	関西国際空港→新千歳空港		SUP体験	キャンプ場周辺の自然観察	
9:00					ノシャップ寒流水族館
10:00		白い恋人の丘		ツギノバ	
11:00		利尻島郷土資料館			
12:00	昼食	昼食		鴛泊港→稚内港	稚内空港→新千歳空港
13:00		教育長と対談	昼食		
14:00		利尻町立博物館	トレッキングツアー		千歳水族館
15:00	新千歳空港→稚内空港			昼食	
16:00		バンガローチェックイン		ホテルチェックイン	
17:00					新千歳空港→関西国際空港
18:00	宗谷岬	あそびどころ交流	夕食		
19:00	ホテルチェックイン			夕食	
20:00	夕食				関西国際空港→花園駅
21:00					
22:00					
23:00					
0:00					

2.　島活プロジェクトの概要

利尻・京都島活プロジェクト（以下、「本プロジェクト」）は、「多くの子どもたちが利尻　島の雄大な自然に触れることで環境問題に対する意識を育むと同時に、利尻島を第二の故郷と感じてほしい」という想いのもと 2021 年に立ち上げられたプロジェクトである。本プロジェクトは子ども会の活動の一環として実施している学生主導のプロジェクトという特徴がある。NPO 法人 NCM ジャパンと協

働している「花園教会水族館」（以下水族館）と花園ジョイフル子ども会（以下子ども会）の活動のうち、子ども会の活動に関わっていた市倉慎吾氏が本プロジェクトの発起人となった。

2021 年 8 月に子ども 2 名を引率のうえで利尻島を初訪問した。そして現地の漁師さんやそのご家族との交流を果たし、島の一次産業や環境問題について学んだ。続く 2022 年 8 月には子ども 3 名引率の上で利尻島を再訪し、現地の個人塾「あそびどころ」にて利尻島の子どもたちとも交流を深めた。

2023 年から 2024 年にかけては、3 度目となる利尻島訪問の計画と並行して、京都と利尻島を結ぶオンライン交流会を 2023 年 1 月より定期的に実施した。そして 2024 年 1 月に本プロジェクト初となる冬季の利尻島訪問を行った。

2024 年は、これまでの文化交流という目的に加え、利尻島での自然保護活動も目標として定めた。利尻島の子どもたちに自然への興味を持ってもらう、というのが当面の目標である。

（2024 年冬訪問報告書の内容をもとに作成）

3. 利尻町教育長との対談

20 日に、利尻町教育長兼利尻町立博物館館長である宮道氏と対談を行った。利尻島

での自然保護やそれに関する教育・研究について、以下のようなお話を伺った。

まず利尻島での学術的な調査について、学術的フィールドワークについては滞在サポートが可能な場合があるそうだ。また博物館として行う利尻山への調査研究登山に、登山知識を持った学生と合同調査を行う可能性もある。さらに、学芸員の方がフォローアップする博物館インターンの制度もあり、そちらの利用も可能だとのことだった。

利尻島での自然保護の実態としては、特に外来種の調査は利尻山の奥深くに入る必要があるそうだ。すぐ隣に位置する礼文島では、平地で簡単に外来種と在来種を見分けることができるため生態系保全が進んでいる。しかし利尻島ではレジャー目的で多くの人が入ってくるため調査の出来る場所が遠く、生態系の実態が分からないとのことだ。また博物館側も、戦前・戦後の研究者が残した剥製など保管すべきものが多く、その業務が大変で何か新しいことを進めるのは現状難しいそうだ。

教育については、「利尻昆布がどのように活用されているのか」などのふるさと教育が近年なされるようになり、島の子どもたちは利尻について知る機会が増えているそうだ。むしろ大人やお年寄りの方がそのような教育を受けていないため、あまり知らないとのことだ。

利尻島での生態系保全活動の難しさとその原因について知ることができた。博物館の現状を聞き、新しい活動を始めることはどこの土地・施設おいても難しいのだと感じた。また、学生や研究者がフィールドワークを行う機会が設けられていることも分かった。水族館ボランティアの中で興味のある人がいれば、それらのプログラムを利用するのも良いと思う。

4.　あそびどころ交流

・子どもたちの自然への意識

今回の訪問でも、これまでの訪問と同様に利尻島の私塾あそびどころの子どもたちとの交流を行った。京都と利尻の小学生どうしの交流を行うこと、水族館や自然について興味を持ってもらうことを目的とした。

事前にあそびどころ代表の廣瀬諒氏に伺った話では、利尻の子どもたちは自然に触れる機会があまりないそうだ。川や海が「危険なので子どもだけで入ってはいけない場所」とされていること、水族館や動物園が島内にないため交通費などの面で子どもだけでは訪れるのが難しいことなどが原因だと考えられる。また漁師の方が多い地域であるため、魚などは生き物として触れ合う対象ではなく食べ物としての印象が強いそうだ。

・交流で行ったこと

今回のあそびどころとの交流では、水族館についてのプレゼン、ゲームを通しての交流、図鑑の寄贈などを行った。プレゼンは参加メンバーの小河に行ってもらった。水族館の楽しさや意義を伝え、水族館や生き物に興味を持ってもらうことを目的とした。交流では一緒にゲームをし、他地域の小学生ど

うしでの交流を行うことができた。図鑑は、水の生き物図鑑と食べ物の図鑑を寄贈した。一緒に中を見る時間などは設けられなかったが、あそびどころに置いていただけることになった。

普段から生き物に触れている子ども会の子どもたちが利尻の子どもたちと交流することで、同年代での会話で得られる発見や興味があるのではないかと感じた。今後も可能な限り、子ども会と利尻の子ども同士が交流できるような場を設けたい。

5. トレッキングツアー

21 日に、自然ガイドの方にトレッキングツアーを行っていただいた。利尻島の東北に位置するポン山と姫沼を訪れ、道中の植物や動物についての話を伺った。道沿いに生えている植物の名前、植生、匂いなどの特徴を知ることができた。また鳥や虫についても話を伺った。ポン山の登山

口から標高 444m の山頂までは標高差 250m 程度だが、その道中でも標高による植生の違いや、同じ植物でも生息の仕方が違うことを知った。本州と植生が異なることはもちろん、北海道本島とも異なった植生であるそうだ。

自分たちでトレッキングを行うだけでは得られない知識や経験が得られたため、現地の方や専門の方には積極的に話を伺うべきだと感じた。

6. 現地の漁師さんとの交流

今回利尻島を訪問した時期に、水族館ボランティアである小林氏が漁師さんのもとでアルバイトを行っていた。そのためそのつながりで、漁師さんとも話をすることができた。また、小林氏を通して漁師さんから現地の情報を頂くこともあり、実際に利尻島に住んでいる方との繋がりはあった方が良いと感じた。

7. 移住について

22 日に利尻町定住移住支援センターツギノバを訪れた。カフェスペースの中に移住に関する本やチラシ、求人情報などが置かれていた。職員の方に移住の難しさについて伺ったところ、土地の確保が一つの要因だそうだ。利尻島はその大部分が国定公園に指定されており、そのエリアには新たに建築を行うことができない。また不動産仲介業者が無いため、移住のための家を探すには現地の方の伝手が必要だそうだ。

これから移住しようという人にとって伝手を探すことは困難だと感じる。だからこそツギノバのような支援センターが存在するのだろうと思った。

8. その他道中での自然観察など

道中、道端や川などでも動植物の観察を行った。利尻島ではコエゾゼミというセミが多く鳴いていた。鳴き声は蛍光灯のジーという音のようだと表現される。またニホンザリガニの生息地を探すべく川の調査も行った。しかし多くの川に護岸工事が行われており、ニホンザリガニの生息しそうな場所を見つけることはできなかった。

京都で聞くセミとは全く違った鳴き声で、調べてみるまではセミだと分からなかった。地域によって、生息する生き物の種類も違えばそれらの鳴き声や生態も大きく異なるのだと感じた。

9. 今後の課題

今後の課題としては三つある。一つ目は現地に知り合いがいた方が良いということだ。毎回廣瀬氏には事前準備やあそびどころ関連でご協力いただいているが、一人だけに頼る訳にもいかない。今

回は偶然ボランティアの小林氏がアルバイトをしており、現地の漁師さんとかかわりを持つことができた。今後も現地の漁師さんとの繋がりを持つことや、可能であればボランティアの中で昆布干しのアルバイトに参加している人と協力して島活を行いたい。

二つ目は現地での移動手段である。今回はレンタカーを使用したが、車が無い場合や免許を持つメンバーがいない場合はバスで利尻島内を移動することになる。利尻島のバスは本数が少ない事、今後生き物の採取を行う場合は多くの荷物を持ち歩く必要があることを踏まえると、車を運転できる人が参加メンバーに居てほしい。

三つ目は人員の確保である。島活全体のメンバー確保もそうだが、実際に島訪問に参加できるメンバーの確保が必要である。特に三回生・四回生は就活や実習などで参加が難しい場合も多いため、一回生・二回生や大学院生のメンバーを増加させたい。8 月に島活の広報も兼ねてボランティアのオンライン交流会を行った。今後も継続して交流会を行い、島活や利尻島について知ってもらって、新規メンバーを確保したい。

10. 感想

今回の島活プロジェクトは、子どもたちとの交流と自然探索が中心でした。子どもたちとの交流においては、賢俊くんと利尻の子どもたちとでお互いに沢山話したり、地域の違いを見つけたりして、楽しんでもらえていたので良かったです。自然探索においてはガイドさんをお願いしたことで、自分たちで

山を登るだけでは得られない知識が沢山得られました。違う季節にもガイドさんにお願いしてトレッキングをしてみると、新たな発見があると思います。

また今回の利尻島訪問では先生が車を運転してくれたことで、行動の幅が大きく広がったと感じました。道中で川や植物を探したりその写真を撮ったりという行動はとても良い経験になりました。さらに、行動の幅が広がったことで漁師さんやツギノバの職員さん方とも繋がりが持てたことも、今後に役立つポイントだと思います。今回できた繋がりを今後に活かしたいです。

山内